

(様式2)

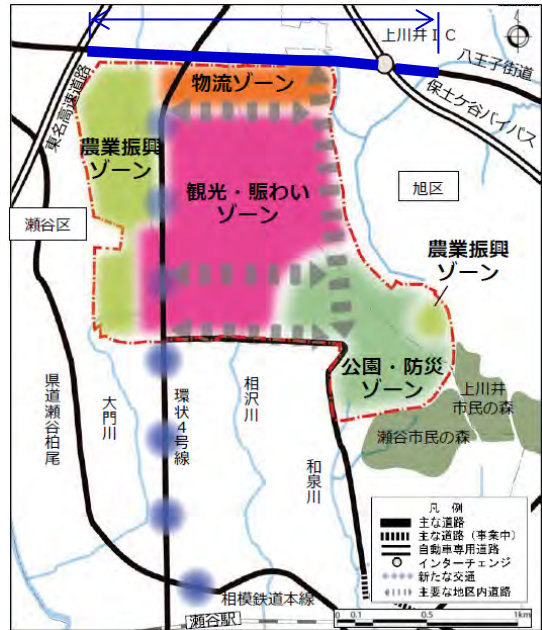
公共事業事前評価調書(案)

事業概要	事業名	【都整-2】 市道五貫目第33号線(上川井・上瀬谷地区)道路整備事業
	場所 (所在地)	旭区上川井町～瀬谷区北町
	事業目的	<p>市道五貫目第33号線(旧国道16号八王子街道)は、旭区上川井町の保土ヶ谷バイパス上川井IC付近から瀬谷区五貫目町の国道246号目黒交差点付近までの横浜市道で、東名高速道路に近接し、重要物流道路である保土ヶ谷バイパスに直結する路線です。沿道には工場や倉庫等多くの事業所が立地しており、保土ヶ谷バイパスを介し、国際戦略港湾である横浜港と主要物流拠点とを連携する重要な道路です。また、緊急輸送路に指定されており、災害時の円滑な避難・救助活動や物資供給のためにも重要な道路です。一方で現在、交通量は片側1車線で約2万台/日を超えているため、日常的に混雑が見られ、当路線内には主要渋滞箇所が複数存在しています。</p> <p>また、当路線に隣接する旧上瀬谷通信施設においては、郊外部の新たな活性化拠点の形成をテーマとして、物流ゾーンや観光・賑わいゾーン等の配置により、将来的には年間1500万人が訪れるまちづくりが計画されており、新たな土地利用により当路線における交通量の増加が想定されます。</p> <p>そのため、旧上瀬谷通信施設の新たな土地利用に伴い発生する主に東名高速道路、保土ヶ谷バイパス及び国道246号といった北方面からのアクセスに対応するとともに、既存交通の円滑性の確保を図るため、当路線の拡幅整備を行います。</p>
	事業内容	現道拡幅(現況幅員11～22m) 延長約1,900m、幅員22～28m(車道4車線、両側歩道)
	事業スケジュール	令和3年度から令和10年度までを予定 令和3年度 詳細設計 令和4年度～ 用地取得・拡幅整備工事 令和10年度 事業完了 ※今後の検討状況により変更となることがあります。
総事業費	約41億円(国費:約22.5億円、市費:約18.5億円を予定) 設計測量費:約2.5億円、用地費:約10.5億円、工事費:約28億円 ※今後の検討状況により変更となることがあります。	

【案内図】



市道五貫目第 33 号線(上川井・上瀬谷地区)



【旧上瀬谷通信施設土地利用基本計画(土地利用ゾーン)】

事業の
必要性

①必要性・優先度

当路線については現在、片側1車線の道路に約2万台/日を超える交通量があり、日常的に混雑がみられます。

さらに旧上瀬谷通信施設における土地利用転換に伴い、想定される交通量の増加に対応するため、当路線の拡幅整備による混雑緩和が期待されており、土地利用に合わせた整備が求められています。

②上位計画における位置付け・根拠法令等

横浜市中期4か年計画(2018-2021)

○戦略4(2)『人が、企業が集い躍動するまちづくり』

～誰もが「住みたい」「住み続けたい」と思える郊外部～
米軍施設の跡地利用の促進

・政策 21 コンパクトで活力のある郊外部のまちづくり

旧上瀬谷通信施設について、地権者等と連携しながら、アクセス道路など周辺の都市基盤整備等も含め跡地利用を推進します。

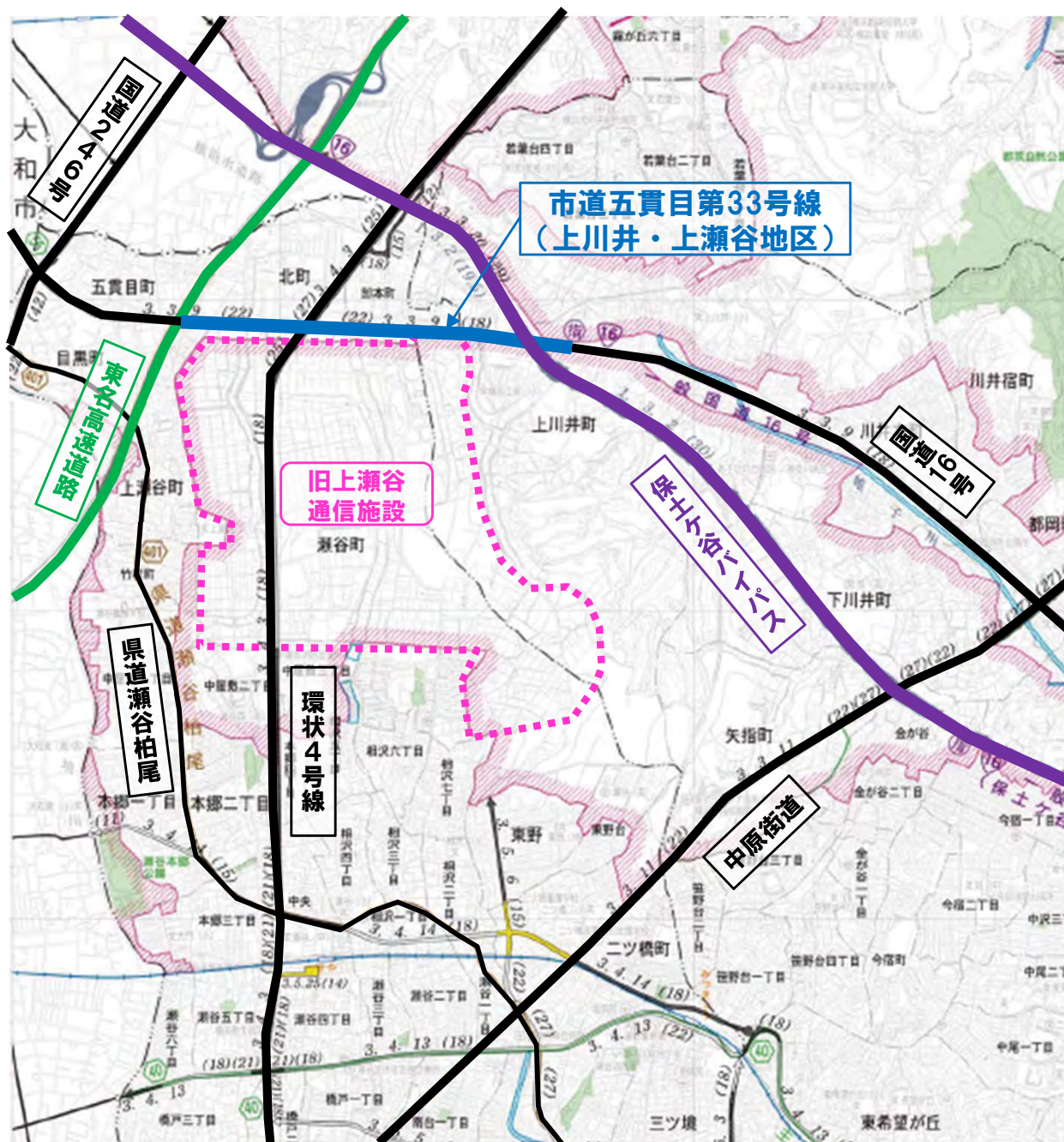
○戦略6(1)『未来を創る強靱な都市づくり』

～災害に強い安全で安心な都市～
地震や地震火災に強い都市づくり

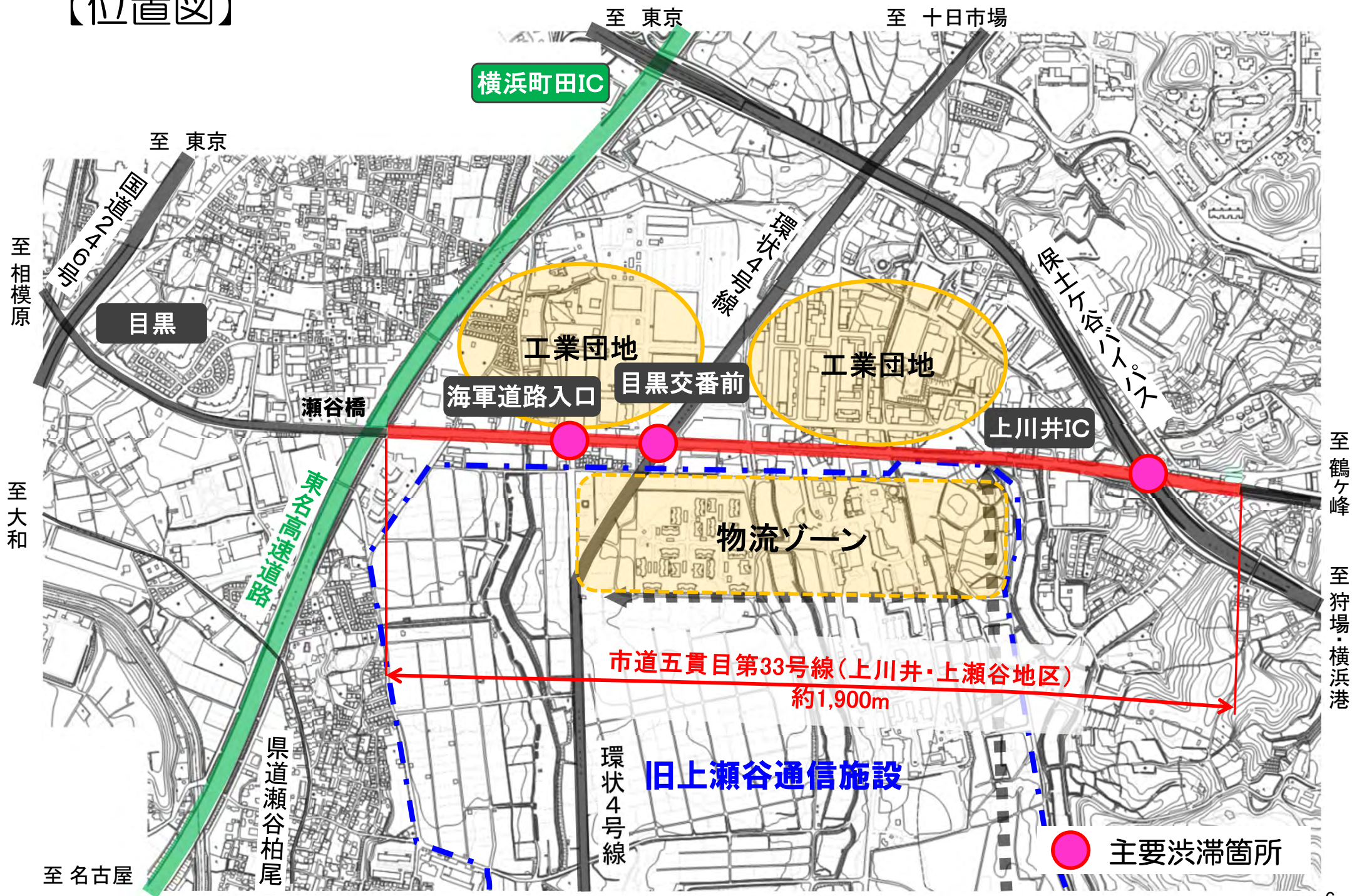
	<p>・政策 34 災害に強い都市づくり(地震・風水害等対策) 緊急輸送路の整備や道路の無電柱化を進め、災害時における消火活動や救助活動、輸送機能の確保のための取組みを推進します。</p> <p>○戦略6(2)『未来を創る強靱な都市づくり』 ～市民生活と経済活動を支える都市基盤～ 人やモノの往来を支える交通ネットワークの形成</p> <p>・政策 36 交通ネットワークの充実による都市インフラの強化 市民生活の安全・安心を確保し、横浜経済の活力を支えるため、都市計画道路の整備を推進します。</p> <p>③社会経済情勢 旧上瀬谷通信施設は、平成 27 年6月に返還された米軍施設の跡地で、令和2年3月に「旧上瀬谷通信施設土地利用基本計画」が策定され、郊外部の新たな活性化拠点の形成をテーマとして、将来的には年間 1,500 万人が訪れるまちづくりが計画されています。 また、当地区においては、令和9年3月に国際園芸博覧会の開催に向けた取組が進められています。</p>
<p>事業の効果 (費用便益分析等)</p>	<p>①定性的事項</p> <p>○慢性的な混雑の緩和 当路線には主要渋滞箇所が3箇所あり、日常的に混雑が見られますが、当路線の拡幅整備により、交通容量が増加するため混雑の緩和が期待されます。</p> <p>○物流ネットワークの強化 当路線の沿道には工場や倉庫等が多く立地しているとともに、隣接する旧上瀬谷通信施設の新たな土地利用として物流ゾーンの配置が計画されており、更に主要な物流拠点となります。そのため当路線の整備により、重要物流道路である保土ヶ谷バイパスを介し、国際戦略港湾である横浜港と主要物流拠点との連携が強化され、物流の効率化が期待されます。</p> <p>○緊急輸送路の強化 当路線は緊急輸送路に指定されており、拡幅整備と合わせ電線共同溝の整備により無電柱化を図ることで、災害時の円滑な避難・救助活動や物資供給など市民生活や横浜経済を支える防災・減災機能を高めます。</p>

	<p>②定量的事項</p> <p>○費用便益分析</p> <p>国土交通省の「費用便益分析マニュアル」(平成 30 年2月)に基づき、B/C を算出しています。</p> <table border="1" data-bbox="501 376 1414 519"> <tr> <td>総便益(B)</td> <td>55 億円</td> </tr> <tr> <td>総費用(C)</td> <td>37 億円</td> </tr> <tr> <td>費用便益比(B/C):標準値</td> <td>1.47</td> </tr> </table> <p>※便益については、走行時間の短縮、走行経費の減少、交通事故の減少を対象としています。</p> <p>※便益算出には、旧上瀬谷通信施設の土地利用を踏まえた交通量を使用しています。</p> <p>※費用については、過年度事業(市道五貫目第 33 号線(北町地区)道路整備事業)の事業費も含んでいます。</p> <p>③コスト削減の取組み</p> <p>舗装、構造物の構造等について、長寿命化の検討を行い、維持修繕が容易な構造とし、維持管理コストの削減を図ります。また、建設発生土の工事間流用による運搬費・残土処分費の削減や、再生材の使用によるコストの削減を図ります。</p>	総便益(B)	55 億円	総費用(C)	37 億円	費用便益比(B/C):標準値	1.47
総便益(B)	55 億円						
総費用(C)	37 億円						
費用便益比(B/C):標準値	1.47						
<p>環境への配慮</p>	<p>低騒音舗装の採用や道路照明器具に LED を使用するなど最新の省エネルギー型機器の採用等を検討し、環境負荷の低減に配慮した設計とします。</p> <p>建設発生土やコンクリート塊など建設副産物の有効活用に努めます。</p>						
<p>地域の状況等</p>	<p>事業の実施にあたっては、関係地権者及び周辺地域の方々を対象に説明会等を実施しながら進めます。</p> <p>令和2年9月開催 : 八王子街道(市道五貫目第 33 号線)拡幅整備に向けた説明会 令和4年度開催予定: 道路設計・用地補償説明会</p>						
<p>事業手法</p>	<p>公共発注方式</p>						
<p>その他</p>	<p>—</p>						
<p>添付資料</p>	<p>有</p>						
<p>担当部署</p>	<p>都市整備局上瀬谷整備推進部上瀬谷交通整備課 (Tel045-671-4607)</p>						

【案内図】

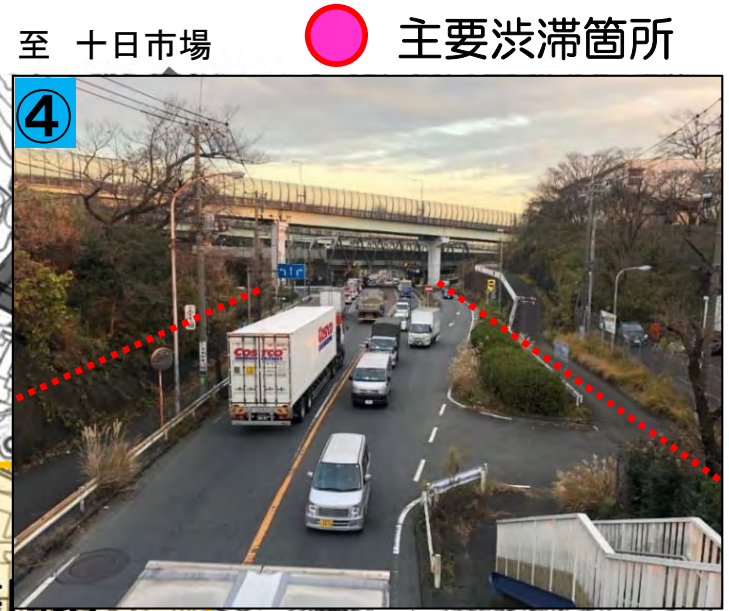
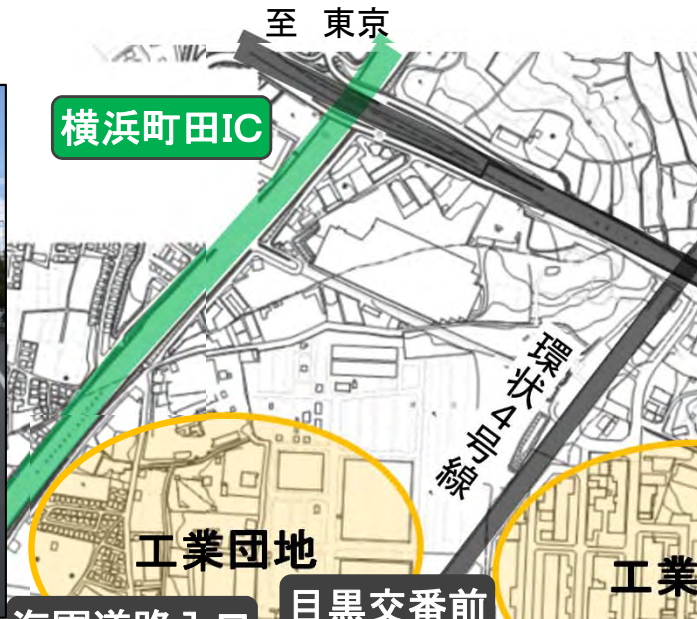


【位置図】



至鶴ヶ峰
至狩場・横浜港

【現況写真】



至 大和



至 名古屋

県道瀬谷柏尾

至 鶴ヶ峰

至 狩場・横浜港